

第7回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 平成30年8月3日(金)
開会14時00分 閉会15時18分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子 |
| 委員(教育長職務代理者) | 中島 義雄 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 教育次長 | 日比 謙一郎 |
| 教育政策課 | 課長 中本 正行 |
| | 副課長 細川 誠 |
| | 総括主幹 間野 良一 |
| 高校教育課 | 課長 藤岡 隆幸 |
| 義務教育課 | 課長 石本 康一郎 |
| 特別支援教育課 | 課長 林 栄昭 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 附議事項
(1) 平成31年度使用教科用図書採択について
- 6 報告事項
(1) 「平成30年度全国学力・学習状況調査結果」の概要について

7 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項（１）は、教育行政の公正又は円滑な運営に著しい支障を生じるおそれがあることから、教育委員会会議規則第１２条に基づき、非公開とするよう発議する。なお、開かれた教科書採択の一層の推進のため、審議内容の概要については、採択結果と併せて、後日、ホームページで公表する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。

附議事項（１）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

報告事項（１）「平成３０年度全国学力・学習状況調査結果」の概要について

・義務教育課長から資料により一括説明

(委員)

学力調査の結果について、中学校３年の全国順位は４０位とのことだが、小学校６年時はどうだったのか。

(義務教育課長)

２８位だった。昨年度の中学校３年は、小学校６年時の３８位から３４位まで上げており、今回落としてしまったことは課題である。家庭学習時間についても小学校６年時より短くなっており、生徒自身が意欲を持って家庭学習に取り組むことにつながる授業改善が必要であると考えている。

(委員)

原因は分析できているのか。

(義務教育課長)

現在は傾向だけであり、詳細な分析はこれからである。

(委員)

中学校３年で学習１時間以上と回答した割合が、小学校６年時と比較して減少しているが、毎年そうなのか。

(義務教育課長)

全国的にはほとんどの都道府県で、中学校３年で学習１時間以上と回答した割合

が、小学校6年時と比較して増加しているが、本県はほぼ毎年減少する傾向にある。

(委員)

それはなぜか。

(義務教育課長)

現時点で原因は把握できていないが、行政だけでなく、生徒や保護者の生の声を聞くことも必要だと考えており、そうした聞き取りも行いながら、今後詳細に分析していきたい。また、減少傾向から増加に転じた県もあるため、どのような取組が効果的だったのか、好事例を収集し、普及してまいりたい。

(教育長)

宿題の出し方も含め、家庭学習については抜本的な改善が必要である。

(委員)

学習状況調査の結果について、家庭学習時間や授業の理解度が学力調査の結果に影響しているとのことだが、スマホ等の使用時間はどうか。

(義務教育課長)

スマホ等の使用時間に関する質問項目がなくなったため、本調査での分析はできないが、生徒指導推進室が行っているスマホ等の利用に関する実態調査も絡めて分析してまいりたい。

(委員)

宿題の量と学力調査の結果の関連はどうか。

(義務教育課長)

質問項目にないため、本調査では分からない。

(委員)

モデル的に分析してはどうか。

(義務教育課長)

学習習慣形成モデル事業で指定しているモデル校において、宿題の出し方も含め、分析したい。

(委員)

通知表を見ても評価の基準が分かりにくく、保護者に伝わりにくく感じる。改善してほしいところなどを保護者に気づいてもらい、協力してもらうためにも、子どもの学校での様子を分かりやすくはっきりと伝えてもらいたい。

(委員)

学校全体や個人の平均点の推移がフィードバックされ、期待値を常に示すような仕組みがあれば親も分かりやすいと思う。

学習状況調査の結果について、学習1時間以上と回答した割合は市町村によって差があるのか。

(義務教育課長)

中学校3年で学習1時間以上と回答した割合が、小学校6年時と比較して減少せず、同程度に維持できている市町村もあるので、当該市町村の各学校がどのような取組を行っているのか、現在聞き取りを行っているところである。

(委員)

中学校3年の学力調査の結果について、県立学校は平均正答率が高く、市町村立学校と差があるが、中学校1年時の県調査でも同程度の差があったのか。

(義務教育課長)

中学校1年時の県調査でも偏差値で10ポイント以上の差があるが、中学校3年時の本調査ではその差が拡大している。学習1時間以上と回答した割合についても、県全体の平均が小学校6年時と比較して減少している中、県立学校は増加しており、学力・学習状況ともに差が開いている状況である。

(委員)

県立学校が伸びている理由を分析することが、県全体の改善策のヒントになるかもしれない。

(委員)

学力は全国的に二極化傾向と聞くが本県はどうか。

(義務教育課長)

二極化傾向にあると言える。その中でも本県においては、トップ層は全国平均と同程度存在するものの、下位層が全国平均より多くなっており、この勉強が苦手な層の学力向上に注力する必要があると考えている。

(委員)

学級崩壊などの問題も本調査結果に影響すると思うがどうか。

(義務教育課長)

小学校6年間で一度でも学級崩壊が起きると、その学年はなかなか学力が取り戻せないという結果が出ており、まずは落ち着いた学習環境をつくることが大切である。

(委員)

県立中学校の生徒を、住んでいる市町村に割り戻した市町村別の状況などはないのか。

(義務教育課長)

中学校1年時の県調査では、県立中学校の生徒を、在籍していた小学校の所在市町村に割り戻した結果を出している。岡山市と倉敷市は母集団が多いのであまり影響がないが、津山市についてはいくらかは影響がある。

(委員)

中学校で学習時間が減っている課題の原因把握に向けて、生徒にもヒアリングすることのことがだが、どのようなことをすれば勉強する気持ちになるのか、学校にやってもらいたいことなど、当事者の思いを聞くようにしてもらいたい。

(教育長)

小学校から進学して間もない中学校1年にも聞いてもらいたい。

(委員)

高梁市や和気町の中学校は、小学校6年時と比較して標準スコアを伸ばすことができているので、そうした市町で効果的だった取組も参考にしてほしい。

(委員全員)

了 承

附議事項(1)平成31年度使用教科用図書の採択について

- ・高校教育課長・特別支援教育課長から資料により一括説明

(委員)

倉敷まきび支援学校の小・中学部の児童生徒は、臨時的に他の支援学校に通うことになるが、受け入れ先の支援学校の教科書に合わせるのではなく、倉敷まきび支

援学校で使用していた教科書を使うという理解で良いか。

(特別支援教育課長)

そうである。

(委員)

体育の授業は場所の問題もあると思うが、どのように行うのか。

(特別支援教育課長)

受け入れ先の支援学校と、場所も含め調整した上で授業を行うこととしている。

(委員)

岡山聾学校高等部の教科書を変更した理由は何か。

(特別支援教育課長)

学校の教科用図書選定委員会において、生徒の実態を踏まえ協議した結果、今回示している教科書が適当であるため、変更したところである。

(教育長)

これより採決に入る。議第16号について、原案に賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、議第16号は原案のとおり決した。

閉会